

すずかみん報

第120号
2005年5月1日

日本共産党鈴鹿市議団
市議会報告特集

神戸中学校・平田野中学校

早く建てて



国府町に移転予定の平田野中学校

「PFI」検討で、 移転新築が遅れる

ムダな調査に

1200万円も

市立神戸中学校と平田野中学校は、昭和40年前後に建てられた校舎の老朽化がすすみ、全面的な移転新築が計画されています。すでに移転先がそれぞれ決まって、用地取得の段階まで来ています。

ところが、鈴鹿市が「PFI」を導入する対象に、この2中学校建設事業を入れるために、移転そのものが大きく遅れるおそれが出ています。

何のメリットもないとは明らか

鈴鹿市は、今年度予算にこの「PFI」導入調査費を1200万円計上しました。民間コンサルタントに、中学校建設をPFIにするのが良いかどうか「を調査させる」とのことです。

日本共産党の石田秀三、森川ヤスエ議員は、「学校を建設するだけの事業は、調査するまでもなく市が主体で行なう方がよい。」管理運営は教育委員会がするので、民間は建てるだけ、学校で営利事業は出来ないし、PFIのメリットは何もない。「費用を安くするなら、工事入札で下げることで可能。」ムダな調査に使う予算を、削られた少人数授業の講師の人件費に回



現在地より北側に移転予定の神戸中学校

もとの計画どおり に建設すすめて

さらに、市主体で行なえば早くできる移転工事が、PFI検討のために3年も4年も計画が先送りになるために、

当面の耐震工事や生徒増のためのプレハブ校舎などの費用も必要となり、ムダを重ねることもなります。

給食センター、移転先きまる

07年度から 新センターで調理

その後、用地交渉がまとまり05・06年度で建設することになったものです。

跡地の利用方法の 検討を

老朽化で建て替えが迫られていた飯野給食センターが、牧田小学校南側の旧ホンダ社宅跡に移転することになりました。早期建て替えを勧められていたのに計画が遅れ、旭が丘小給食室廃止が先になったために、オーバーする一千食を白子小など3校の給食室に分散し、年一千五百万円の余分な出費になります。

森川ヤスエ議員は、飯野小に隣接する現センターの土地について、学校から遠すぎる児童保育所を移転する、地域に開かれたスペースを作るなど、地域の要望を検討して決めることを提案しました。



森川ヤスエ 市議

「PFI」とは？

者である自治体が長期契約のもとに使用することになります。

財政負担へらない

建設時の一時的な財政負担は少なく見えますが、毎年支払う財政負担は増える、民間事業者が行き詰まった場合は自治体が責任をかぶる、など多くの問題があります。

公共施設の設計・建設から管理・運営までを、民間の資金を活用して行なう手法で、99年に「PFI法」が制定されて国や地方の施設建設に導入が始まっています。

民間事業者の資金で建設した公共施設を、本来の設置

水源保護条例の制定

一年以上もタナ上げ

鈴鹿市民の飲み水を将来にわたって守るために、井戸や排水を規制する「水源保護条例」を制定することを、一

昨年11月に、鈴鹿市水道水源流域保全審議会」が川岸市長に答申を出しました。しかし、その後1年たっても条例が具体化されてきません

いつ提案されるのか？

3月議会で石田秀三議員は、条例はいつなっているのか、いつ提案する予定かについてたずねました。



鈴鹿川沿いに点在する水源井戸(西富田町)

水道局長は、「大変きびしい規制になるので、各方面との協議が必要」と述べるだけで、具体化の見通しを示しませんでした。

いまなぜ「東京事務所」か？

川岸市長は新年度予算に、「東京事務所」を設置するための調査費を計上しました。

時代に逆行では

「情報の収集と発信」のためと言いますが、いまやインターネットで世界の情報に接することができる時代となり、ま

たこれまで東京事務所を置いていた自治体も撤退する傾向です。

日本共産党市議団は、多額の費用をかけて東京に職員を送るより、市民に役立つ仕事をさせる職員の育成に力を入れることを求めました。

-
-
-
-

石田議員は、「市民公募もした審議会が何回も検討して出した答申を、諮問した側がタナ上げしているのは、きわめて異常だ」と、条例化の問題点を明らかにすることを、強く求めました。

地下水の汚染をふせぐ規制が中心

審議会答申は、鈴鹿市の水源である鈴鹿川沿線の井戸の周辺を「特別保全区域」、その上流などを「保全区域」とし、特に「特別保全区域」内では新たな井戸や排水を規制するとしています。

自己水源の大半をまかなう地下水は、一度汚染されたら取り返しがつきません。市民の暮らしを支える水道水の「安全・安心」を保証できる条例の早い実現が待たれます。



石田秀三 市議



一方的な料金値上げ

県廃棄物処理センター

4年後には2倍に

鈴鹿市は清掃センターでゴミを焼却した灰を、四日市市にある「廃棄物処理センター」(ガス化溶融炉)へ処理委託

しています。この処理料金はスタートから2年間、1トン2万円でしたが、県環境保全事業団は一方的に05年度から2万8千円に値上げをしました。

さらに07年度には3万5千円、09年度には4万2千円と2倍化の値上げを予定しています。鈴鹿市の負担は05年度で約6千万円も増えます。

石田秀三議員は、スタート時の話とまったく違うこと、ズサンな経営赤字のツケを市町村に一方的に押し付けるやり方を批判し、県の責任を明らかにした交渉をすることを求めました。

完成近づく新庁舎、問題は？

本年末の完成に向けて、新庁舎の工事が進んでいます。15階建てノックビル姿が市内どこからも見ることがで



近鉄鈴鹿市駅より望む新庁舎

きます。また完成後は、市民窓口を1階に集める、15階の展望ロビーを市民に開放するなど、親しまれる市役所と計画されています。

駐車場・食堂は

どうなる

この庁舎に関連して日本共産党市議団は、立体駐車場の問題、食堂の問題、改善を求めています。

立体駐車場は出入口が1ヶ所だけ、その前の道路に5台も車が並ぶと出入りが出来なくなってしまう。また、新庁舎の中には食堂がひとつもありません。8百人の職員と多数の来庁者の昼食に困ることが、今から予想されます。使い出してからでなく、今のうちに解決策を考えることが求められます。



県廃棄物処理センター(四日市市小山町)